

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-1-6 第636回例会 NO. 14-25 2004-1-14 発行



謹賀新年

今年は平和な年でありますように、
電ヶ岳頂上にて 初日の出 2004年元旦東京多摩・東京稲城・東京多摩グリーン
合同寿例会

◇例会[18:30~19:00]

◎司会 多摩RC 久嶋 達也
◎点鐘 稲城RC会長 藤井 丈久
当RC会長 大松 誠二
多摩RC会長 志村 光明

◎国歌斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー 多摩RC 関戸 達哉

四つのテスト唱和 多摩RC 関戸 達哉

◎お客様紹介 多摩RC 会長 志村 光明

多摩市長 渡辺 幸子様

稲城市長 石川 良一様

(未到着のため懇親会にて紹介)

※以下、当クラブ関係のみ掲載

◎会務報告 会長 大松 誠二
特になし。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・他クラブより例会変更のお知らせがきていますので、メイクアップされる方は事務局にて確認して下さい。
- ・年賀状をいくつか頂いていますので、来週の例会で閲覧いたします。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員長 平野 行廣

- ・会員総数 44名
- ・出席義務者数 43名 (出席免除者2名)
- ・出席者数 38名
- ・欠席者数 5名(事前MU0名)
- ・出席率 88.37%
- ・欠席者: 萩生田政由、正房 正孝、小田 泰機、佐伯 和廣、関岡 俊二
- ・補填MU: なし

12/24 最終訂正出席率 86.05%

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

◎ニコニコBOX

親睦活動委員長 伊澤ケイ子

大松 誠二 3クラブの会員の皆さん、おめでとうございます。今年こそロータリーの目指す平和な年でありますように・・・

藤本 吉文 あけましておめでとうございます。あと半年です。皆さん、宜しく。

伊藤 英也 皆様方へ、明けましておめでとうございます。今年も宜しく。

阿部 華歌 明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈りします。

津守 弘範 おめでとうございます。3クラブを祝して。

平野 行廣 おめでとうございます。久しぶりです。

北村 幸彦 今年は私の干支、猿年です。デフレと不況のサル年にしたいですね。

赤尾 恭雄 ロータリーが本来のロータリーを回復できる1年であることを願って。

藤原 正範 本年も宜しくお祈り致します。

由井 眞司 明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈りします。

加藤喜三郎 新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈りします。

小林 正 明けましておめでとうございます。本年もお世話になります。宜しくお祈り致します。

田島真由美 3クラブ合同例会を祝して。

宮本 誠 新年おめでとうございます。

海野 榮一 明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈り致します。

菊池 敏 皆様、明けましておめでとうございます。

小城 章員 新年おめでとうございます。

吉沢 洋景 明けましておめでとうございます。本年も宜しくお祈り致します。

杉野志保子 明けましておめでとうございます。

伊澤ケイ子 新年おめでとうございます。

事務局 クリスマス例会2次会のお釣りで。

本日の合計¥37,641(累計¥551,998)

◎点鐘

東京稲城RC会長 藤井 丈久

当RC会長 大松 誠二

東京多摩RC会長 志村 光明

◇懇親会[19:00~20:30]

◎司会 多摩RC 親睦活動委員会

◎開会挨拶 多摩RC会長 志村 光明

◎お客様ご挨拶

稲城市長 石川 良一様

多摩市長 渡辺 幸子様



◎乾杯

稲城RC会長 藤井 丈久

☆☆懇 談☆☆

◎イベント ビンゴゲーム

◎閉会挨拶

当RC会長 大松 誠二



◎ロータリーソング「手に手つないで」

ソングリーダー 多摩RC 関戸 達哉



閉 宴

(例会担当：赤尾 恭雄)

元米山奨学生 宋珉煥（ソンミンヨン）さんから年賀状を頂きました。お元気で活躍しておられるようです。

“新年明けましておめでとうございます。”

クラブの皆様！お元気でいらっしゃいますか。その間ご無沙汰しておりました。

去年は、私の指導教官であった故小沢有作先生の書籍を韓国のソウル大学中央図書館の中に「小沢文庫」として整理することを完成いたしました。時間が長くなりましたが、故小沢先生が残した大事な資料などを人々がよく使えるよう整理するために時間がかかりました。ソウル大学の人力だけでは整理が出来なくて、日本から寄贈委員会の方々がいまして、また韓国では、私が会長をしている「韓国日本教育学会」の会員などの手をかりて整理作業を進めました。いつかはクラブのみなさまもいらしてご覧になって下さい。

他に、去った10月25日には「学問間の対話を通じたホリスティック教育の省察と展望」を主題とした学術セミナーを主催し、また「韓国日本教育学会」の学術セミナーを開くなど、日本との架け橋になる共同研究等を進めております。

みなさまとご家族のご健康や幸せをお祈り致します。今年もよろしくお祈りいたします。

2004年元旦 ソウルから 宋珉煥（ソンミンヨン）

P.S. 韓国へいらっしゃる機会があればご連絡下さい。



ポール・ハリスを我々の心に！ Part 21

▲ 祖父母はともに社交行事を苦手にしていました。しかし、近所の人が訪ねてくると、祖母は必ず後で返礼に行った。叔母のリブ・マーチンデルがよく訪ねてくるので、祖母は嬉しかったようだ。リブ叔母さんは家に来ると、太った体を前後に揺すりながら、仕入れてきたニュースを話し、そのお返しに祖母が面白い話をすると、「いーいー」と言うような声を上げて感謝の意を表していた。「いーいー」は何かを短くしたものなのか、それとも名詞、代名詞、動詞あるいは副詞であるのか、よく分からなかったが、ポールは子供の頃、いやというほど聞かされた。リブ叔母さんには神経質な習癖があり、何度も目を閉じてから大きく開いたが、ポールは一種の病気ではないかと思った。何故そんなことをするのか聞いてみようと思ったこともあったが、祖母の手前を考えて止めた。叔母さんは我が家に来る時には、小さなショールを頭から被ってきましたが、家にいる間は、そのショールを首から肩に掛けていた。

リブ叔母さんが家に来ると、ラトランドのいとこ達のこと主な話題になった。メアリーが適齢期になると、ラトランドの若者達全員を適不適のふるいに掛けていた。そして、メアリーと顔見知りの若者は、一応、全員が候補者のリストに載せられて、適当に褒めたり貶したりしていた。ポールは若者達の「紳士録」を暗記してしまったので、メアリーを嫁に貰えるかどうか、聞かれれば答えられた。

祖母と叔母さんは、ラトランドのフォクス家のいとこ達それぞれに家庭を持たせる相談に花を咲かせたり、男の子の一人には事業をやらせることにして、他の子供達は専門家に育てる相談をしたり、娘達はそれぞれ嫁にやっって、子供を全員立派に世の中に送り出す算段をしていた。

ところが、何年か経ってみると、祖母と叔母さんが取り決めたようには、うまく事は運んでいなかった。

（コーナー担当：赤尾 恭雄）

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 22

狐池にまつわる悲劇もあった。ウォリングフォードの美人で、人柄のよい、妙齢の婦人ナンシーが狐池で投身自殺をした。ポールより年上だったが、以前、祖母のところで「ハイヤード・ガール」（お手伝いさん）をしていたことがあって、ポールには親近感があった。当時のニューイングランドでは、教養があって、垢抜けした婦人

「ロータリー知識」 入門編
ロータリーについて5 (私の考察IV)

でも、職のない人はよその家の家事の手伝いをするのはごく普通のことで、他家の手伝いをしたからと言って、社会的に蔑視されることはなく、また、このような婦人が家にいることは、社交的にも経済的にもためになった。

ナンシーは目が黒く、背が高く、すらっとして、どんな職業にも向いている妙齢の婦人だった。その上彼女は、村の老若男女から可愛がられていたので、亡くなってしまうと村の雰囲気も暗くなった。ナンシーは教養人でしたが、繊細な神経の持ち主で、悩み事に負けてしまったのだ。

ある夜、ナンシーはベッドから起きると外へ出た。そして、以前よく通った道に沿って歩いて、小川の橋を渡り、丘を登り、森を過ぎ、坂を下って、楽しいピクニックの思い出を秘めている狐池に行った。彼女は我々には考えられないようなことを心に決める、ゆっくりと冷たい水の中に入って行って、水が膝の上まできたときに、そのまま前に倒れて死んだのだ。水深は浅くて、子供でも助かろうと必死になれば助かるようなところだった。翌朝になって、捜査隊は直ぐに遺体を発見した。

ナンシーが隠忍自重のうえ自殺を決心した話は、その後も長い間村の話題になっていた。彼女を責める村人は誰もなく全員が哀悼の意を表した。彼女の死は村人にとっても大損害で、ナンシーは素晴らしい思い出だけを村に残してくれた。

村人達は、ナンシーの近親が次々と亡くなられたことを思い出した。先ず父親が亡くなり、次に母親、続いて心優しい美男の弟が亡くなってしまったのだ。弟のネイルは肺病で若死にだった。近親を失ったショックで、ナンシーは妹のリジーを熱愛するようになった。ナンシーには誰か愛情を注げる人が必要だったので、自然とリジーにそれを求めたのであるが、そのリジーは、彼女が面倒を見ていたフランク・ミラー老人の遺言でその遺産を相続し、その後、結婚したため、ナンシーは支柱を失い孤独感に襲われるようになってしまった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)



前回述べた職業奉仕の理念をめぐっては、種々の論争もあり、この理念の理解は難しいという人も簡単だという人もおります。簡単派の考えは、まことに簡単で、それぞれが己の仕事を正しく一生懸命やればそれが取りも直さず職業奉仕の実践であり、難しい理屈はいらないというようなものです。このような簡単派の考え方は、独特の理念とか哲学というより一種の職業訓ないし人生訓のようなものであり、それはその人なりのもので、その考えを積極的に広めるという発想（ロータリーにはその理念あるいは哲学を世界に広めるという発想があるように思われます。）には繋がりにくいのではないかと気もしますが、難しく考えないというのは私も大いに賛成ですし、気も楽になります。その点はともかく、シェルドンの職業奉仕の理念を前提に、定款第4条前文を私なり理解しますと、この前文は、シェルドン以来の職業奉仕の理念をロータリーの基本理念として宣言したものであり、その内容は、有益な事業（これはR Iの原文では「worthy enterprise」となっており、worthyは優れたとか立派なという意味ですから、有益とは少しニュアンスが違うような気もします。）は、すべて職業奉仕の理念に基づいて経営が行われるべきものであり、ロータリーとしては、そのような事業経営が広く行われるように職業奉仕の理念を奨励し、広く社会に広めていくべきであるということのように思われます。このようなロータリーの考え方からすると、個々のロータリアンは、自分の職業を通じてより積極的に社会と関わり合いを持ち社会に貢献していくべきだということになります。ただし、職業奉仕の理念はあくまで正しい事業経営の成功を通じての社会貢献が目的ですから、そこには当然のことながら事業における利益の獲得が前提となっています。職業奉仕には、無償奉仕という発想はないことを理解しておくことが大切です。

(コーナー担当：小田 泰機)